



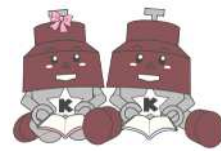
183号2026.3



図書館ホームページ

川口市立図書館

図書館だより



図書館ホームページURL

<https://www.kawaguchi-lib.jp>

図書館公式X(旧ツイッター)アカウント

@kawaguchi_lib



図書館公式X(旧ツイッター)

わたしの今年の一冊 2025

昨年お読みになった本の中で、印象に残った一冊をご紹介頂く「わたしの今年の一冊」は、今回で30回目となりました。たくさんのご応募をいただきましたが、紙面の関係で21点掲載させていただきます。

『ゆびさきに魔法』

三浦しをん／著 文藝春秋 2024年刊 913.6

三浦しをんの本は期待を裏切らない。指先の美しいネイル。自分には縁のないものと思っていたが、読み進めるうちに、すっかり魅了されてしまった。手の指のネイルは、ちょっとハードルが高いので、足の指のペディキュアに挑戦してみた。サンダルを履く夏以外、ほとんど人目につかないが、私の足先には、自分だけが知るキラキラの魔法がかかっている。(70代)

『密やかな結晶』

小川洋子／著 講談社 1994年刊 913.6

“あの頃読んだ児童文学”感に惹き込まれた。モノについての記憶がひとつずつ消えていくという人間の知覚が重要となるテーマで、難しい設定ながら「本当にこんな世界線があるかもしれない。」「歴史を辿ればこんな社会が存在していたかもしれない。」と思わせる文章力と破綻のない物語でノスタルジアを想起させる衝撃を受けた。(20代)

『愚か者の石』

河崎秋子／著 小学館 2024年刊 913.6

北海道の樺戸集治監に収監された人の物語。フィクションですが図書館で借りて、ぜひ集治監とその周辺を見たくなり、北海道の月形まで行ってきました。寒い未開な土地での囚人の過酷な日々思いを馳せました。吉村昭の「赤い人」と合わせて読むことをお勧めします。(70代)

『僕には鳥の言葉がわかる』

鈴木俊貴／著 小学館 2025年刊 488.9

この本はシジュウカラを中心とした鳥の観察と発見の記録である。軽井沢の山荘に滞在して巣箱を仕掛け、シジュウカラがエサを求めるときの鳴き声「チヂチヂ」外敵から身を守る鳴き声「ヒヒヒ」が、コガラ、ヤマガラなど仲間にも知らせる共通の言葉であることを発見する。読み終わると、家の周辺で、様々な鳥の鳴き声に耳を澄ませたくなる。(70代)

『リアル鬼ごっこ』

山田悠介／著 文芸社 2001年刊 913.6

誰もが知る鬼ごっこが、捕まれば命が奪われるゲームだとしたら…。佐藤翼が住む国の王様は自分勝手にわがまま。王国では500万人いる佐藤姓について腹を立てた王様は、鬼ごっこで効率的に佐藤を減らすという恐ろしい提案を実行することに。翼の父や親友、14年前に行き別れた母と妹を見つけ出そうとする翼はこのゲームで生き残ることができるのか、最後までハラハラドキドキが止まらない作品です。(20代)

『密やかな炎』

セレステ・イング／著 井上里／訳

早川書房 2025年刊 933.7

始めは十代の娘たちの話だったが、やがて母達の物語になっていく。十代だったミアの話は思いがけない物語で、すっかりひきこまれた。残された5枚の写真がそこにあるようだった。自分の炎はどんなものなのか、考えずにいられなかった。(50代)

『国宝(上・下)』

吉田修一／著 朝日新聞出版 2018年刊 913.6

映画を観た後にこの原作を読みました。映画では描ききれなかった部分に触れ、より理解が深まったと思います。映画では綺麗さが前面に出ていますが、原作では、人の泥臭さが際立ち、人の一生を物語るには、やはり原作の方が重みがあるなと思いました。ラストは、読み手によって解釈が違ったりするのかなと思う曖昧な終わり方ですが、それもまたこの作品の魅力なのだと感じました。(40代)

『麦本三歩の好きなもの』

住野よる／著 幻冬舎 2019年刊 913.6

大学図書館で働き、食べることが大好きな麦本三歩。三歩の何気ない日常を描いた物語は何度もクスッと笑えて、自分の感情や日々の小さな喜び・幸せを大切にできる三歩の、毎日を前向きに生きる姿に元気をもらえるような、真似したくなる考えばかりで自然と三歩が好きになる作品。「好きなものから好きなものへのバトンタッチ」はお気に入りの一行です。(20代)

『百年の時効』

伏尾美紀／著 幻冬舎 2025年刊 913.6

面白くて一気に読みました。アパートの一室から変死体が見つかったことから、50年前の未解決事件の捜査が始まり、昭和・平成・令和の刑事たちの熱意(というか執念)が“引きつがれ”真相へたどり着く、骨太で重厚な警察小説。令和の刑事が若い女性というのもいいです。(60代)

『火星に住むつもりです』

村木風海／著 光文社 2021年刊 574.27

温暖化を止め地球を守ることは、火星に住むことにまで繋がり、そのための研究が紹介されています。難しそうなイメージも読んでいくと、イラストや分かりやすい文章、笑いありで最後まで楽しく、そして二酸化炭素には無限の可能性があるととても驚きました。改めて地球温暖化の仕組みからどれくらい深刻な問題なのかを知り、エコだと思っていたものも全体的に見た時、「本当にエコと言えるだろうか」と考えるきっかけになりました。(20代)

『いたずらおばあさん』

高楼方子／作 千葉史子／絵

フレーベル館 1995年刊 K913.6

面白すぎてあつという間に読めてしまった。おばあさん2人が重ね着すればする程若返る不思議な服で8歳の女の子に変身するお話。小学生の頃読んだら相当夢中になるだろうなと思った。古めの児童文学だけれど、今読んでもクスリとできて且つとても心をゆさぶられた。大人になってから読めてよかったのかも。(20代)

『ドラキュラ』

ブラム・ストーカー／著 唐戸信嘉／訳

光文社 2023年刊 B933.6

NHKの100分de名著で紹介されて読んでみたら、意外なおもしろさに引き込まれました。思っていたドラキュラ像と違っていた上に、サスペンス要素もあって、ドキドキしながら読みました。まだ読んだことのない方に、改めておススメしたい、一冊です。(40代)

『「駅そば」から広がるそば巡り』

鈴木弘毅／著 交通新聞社 2024年刊 596.38

ひとことに「駅そば」と言っても、店によって味も違い、個性もある。訪ねた店は、3000軒以上。バスターミナル、空港、フェリーターミナルを訪問。旅そばという新境地を開いた。北海道から沖縄まで、実績に裏付けされたためくるめくそばの世界。読むほどにそばが恋しくなり、そば店へ直行したくなる一冊だ。(60代)

『銀座ちぐさ百貨店』

長月文音／著 角川春樹事務所 2024年刊 B913.6

「銀座」とつぶやくだけで、様々な店のいろいろな品物が思い浮かぶ。ちぐさ百貨店では雑貨の他にたい焼きも売っている。そのきっかけが店主の客に対する気持ちを象徴し、銀座という場所とあいまって心に迫ってくるのだ。こんなお店があったら行ってみたい。銀座の裏路地に本当に存在しているのではないかと思わせてくれる作品だ。(60代)

『ゴッホへの招待』

朝日新聞出版／編 朝日新聞出版 2016年刊 723.3

「ひまわり」で超有名なゴッホ。「夜のカフェテラス」の色彩の妙。一番好き。一部分が「原寸大」で掲載されていて興味深かった。弟テオとの多数の手紙。その妻ヨー等が膨大な義理の兄の「遺品」を守り世に出した。同内容(?)の展覧会が開催されていましたが、大病後鑑賞に行けず、本にて十分に鑑賞ができ、改めて本との出会いは一ステキです。(80代)

『シークレット・オブ・シークレッツ (上・下)』

ダン・ブラウン／著 越前敏弥／訳

KADOKAWA 2025年刊 933.7

映画「ダ・ヴィンチ・コード」でおなじみダン・ブラウン作口バート・ラングドンシリーズの最新作が8年ぶりに！
翻訳ものの日本語レベルが格段にアップしている昨今でも群を抜く越前敏弥さんの文章技術で、分厚い上下巻を閉じることができない面白さ。ダン・ブラウン作品は、取り上げた土地の描写も素晴らしく旅行ガイドブックを傍らにおいて読みたくなるほど。今作はプラハを舞台に最新技術の発表会場から歴史深い図書館やホテル等々を駆け抜けるラングドンに目が離せない。しかも終わってみればたった24時間の出来事がこの上下巻に詰まっていた。この機密事項は本当だというから作者の命すら心配だ。森博嗣さんの「すべてがFになる」も読んで数年して再読して細かなCP用語が理解できたことなどを思うとあと何年したらこの技術を理解することができるのだろうか。またまた再読する時が楽しみな今季最高読書時間を味わった一冊。(60代)

『60日で9割捨てる片づけ術』

ミニマリストTakeru／著

クロスメディア・パブリッシング 2024年刊 597.5

片づけの本で何気なく読んだら、生前整理のお話でした。亡くなった時、残された人にとっては9割は処分するもの。これを考えたら片づけられるうちに、身体が動けるうちにいった方がいいと。ミニマリストにはなれないけど物は減らしたいと思い断捨離を始めるきっかけになりました。60日ではムリだったけど、少しずつ頑張っています。片づけを始めたい人に是非おすすめです。(50代)

『月まで三キロ』

伊与原新／著 新潮社 2018年刊 913.6

生きていく中で誰もがぶつかるような壁(人間関係やキャリアなど)を天気や地学の知識をまじえてより沿ってくれるような作品。

短編集で読みやすく、私自身、大学卒業後の進路を決める際、この本に励まされた。(20代)

『ホームレス夫婦、「塩の道」1014キロを歩く』

レイナー・ウィン／著 金原瑞人／訳、笹山裕子／訳

いそつが社 2025年刊 935.7

ある日、夫の友人にだまされ、農場も家もとり上げられ、ホームレスになる。夫にも病気がみつかった初老の夫婦。イギリス南部の塩の道を二人で歩きはじめる。

お金もない中で何とか助け合って歩き続ける。さてラストは？(70代)

『ヨルダンの本屋に住んでみた』

フウ／著 産業編集センター 2025年刊 292.77

ネットで一目惚れした本屋に1ヵ月住みこみで働いた22才の日本人女性の話。楽しく気軽に読めました。いろいろな国から来た他のスタッフとの交流も微笑ましいです。(70代)

『考古学者だけど、発掘が出来ません。』

多忙すぎる日常』

青山和夫／著、大城道則／著、角道亮介／著 ポプラ社

2025年刊 202.5

考古学者は現場(発掘地)で悪戦苦闘をしているイメージですが、実際、発掘に携わるのは年に2~3週間ということなんです。普段は大学の授業(準備、授業、評価等)、ゼミ、教授の会合、所属している研究室の予算計上、発掘の計画書及び資金調達等、日常に忙殺されている様子が面白おかしく描かれており、思わず大笑いをしてしまいました。しかし、発掘地に赴いた途端、あれもこれもやりたいとアドレナリンが大放出し、発掘が終了すると(終了しない場合がほとんどで、後ろ髪を引かれる思いで)日本にとんぼ返りして、日常に戻るそうです。こんなに苦労しても考古学者は辞められない魅力的な職業だそうです。(60代)

このほか、

- 『動物のひみつ』アシュリー・ウォード/作 ●『かがみの孤城』辻村深月/著 ●『おにのみつり』天川栄人/著 ●『地震と独身』酒井順子/著
- 『とけいのあおくん』エリザベス・ロバーツ/作 ●『夏物語』川上未映子/著 ●『図書室のはこぶね』名取佐和子/著
- 『手の倫理』伊藤亜紗/著 ●『近畿地方のある場所について』背筋/著 ●『少式』帚木蓬生/著 ●『月花美人』滝沢志郎/著
- 『学校の「読書バリアフリー」ははじめの一步』野口武悟/著 ●『山猫の夏』船戸与一/著 ●『倫敦塔』夏目漱石/著
- 『お祓いは家政夫の仕事ですか』澤村御影/著 ●『死にふさわしい罪』藤本ひとみ/著 ●『じんかん』今村翔吾/著
- 『4321』ポール・オースター/著 ●『プロジェクト・ヘイル・メアリー 上・下』アンディ・ウィアー/著 ●『翠雨の人』伊与原新/著
- 『マチルダはちいさな大天才』ロアルド・ダール/作 ●『パイドン』プラトン/著 ●『星の教室』高田郁/著
- 『冷たい校舎の時は止まる上・中・下』辻村深月/著 ●『大暴落 ガラ』幸田真音/著 ●『きみの友だち』重松清/著
- 『折れない言葉 [1]』五木寛之/著 ●『おばけずかん』齊藤洋/著 ●『プロ野球選手の戦争史』山際康之/著
- 『アンコール・ワットのサバイバル』洪在徹/文 ●『チェルノブイリの祈り』スベトラーナ・アレクシエービッチ/著
- 『ズッコケ三人組対怪盗X』那須正幹/作 ●『冬の朝、そっと担任を突き落とす』白河三兔/著 ●『シオニズム』鶴見太郎/著
- 『バールの正しい使い方』青本雪平/著 ●『夜が明けたら、いちばんに君に会いに行く』汐見夏衛/著 ●『手紙』東野圭吾/著
- 『体育館の殺人』青崎有吾/著 ●『漫才過剰考察』高比良くるま/著 ●『世界裁判放浪記』原口侑子/著 ●『非暴力主義の誕生』踊共二/著
- 『みさと町立図書館分館』高森美由紀/著 ●『このあとどうしちゃう』ヨシタケシンスケ/作 ●『偶然の装丁家』矢萩多聞/著
- 『ふしぎ駄菓子屋銭天堂』廣嶋玲子/作 ●『ふゆみずたんぼを巡る旅』岩淵成紀/著 ●『水車小屋のネネ』津村記久子/著
- 『小泉八雲』池田雅之/監修 ●『進化という迷宮』千葉聡/著 ●『鍵のない夢を見る』辻村深月/著
- 『ユキは十七歳特攻で死んだ』毛利恒之/著 ●『鬼滅の刃 1しあわせの花』吾峠呼世晴/(原)著 ●『昭和20年8月15日』中川右介/著

……などの本をご応募いただきました。

紙面の関係で、お寄せ頂いた感想や書名のすべては掲載できませんでした。
ご応募いただきました皆様、ありがとうございました！！



川口市立図書館 連絡先・開館時間

【中央図書館】

☎ 048(227)7611
住所: 川口市川口
1-1-1

平日
午前10時～午後9時
土・日・祝日
午前9時～午後6時

【前川図書館】

☎ 048(268)1616
住所: 川口市前川
3-4-27

【戸塚図書館】

☎ 048(297)3098
住所: 川口市戸塚東
3-7-1

【新郷図書館】

☎ 048(283)
1265
住所: 川口市東本郷
1688

【鳩ヶ谷図書館】

☎ 048(285)3110
住所: 川口市坂下町
3-16-6

【横曽根図書館】

☎ 048(256)1005
住所: 川口市西川口
5-2-1

平日
午前10時～午後6時
土・日・祝日
午前9時～午後5時

平日
午後1時～午後5時
土・日・祝日
午前10時～午後5時